

編集後記

皆さんは、忠類川にサケ釣りに行ったことはありますか？
今号は、平成7年から始まった忠類川サケ・マス有効利用調査に立ち上げから携わっている忠類川プロジェクト代表の藤本靖さんと、忠類川が縁で当町に移住した鈴木三男さんにお話を聞きました。
「何か事故があったら終わり」そんな危機感を持ちながら藤本さんは、同調査が始まって以来25年、毎朝のように現地に行き、安全に釣りができるか水深や熊などの確認を行っており、釣り人の「また来ます」の声に励まされ、これまで続けてこられたと言います。
鈴木さんは、初めて忠類川に来た際にまったく釣ることができず悔しい思いをし、色々な人にアドバイスをもらいながら何度も挑戦するうちに初めて釣れたときの喜びを嬉しそうに語ってくれました。
これまでに全国各地から多くの釣り人が忠類川でサケ釣りを楽しみ、悔しい思いをしながらも「また来たい」と思わせる川には、藤本さんのような運営側の苦労もあります。
その様な想いを感じながら今度、忠類川での釣りに挑戦したいと思います。
(Y)

— Special Thanks! —

あかつきダイニング
A マート
川北郵便局
郷土料理武田
ぎんれい精肉店
くるくる2
合田商店

後藤商店書店部
標津漁協直売所
標津郵便局
セイコーマートこんどう標津店
セイコーマート標津まるよし店
セブンイレブン標津町店
大地みらい信用金庫標津支店

ファミリーレストランいしばし
福住
ホームックニコット
Kuni OFFICE
忠類川サケ・マス有効利用調査
実行委員会
*五十音順・敬称略

Follow us on Facebook & Instagram & Twitter !!!

記事に収まらなかったこぼれ話やインタビューの様子などを更新！検索してみてくださいね。

Facebook

Instagram

Twitter

— Information —

しべつろーかるふりーペーぱー
sipeto No.7
Autumn 2019


We are Ynet.!!!

2019年10月31日発行
発行人 Ynet.
発行所 〒086-1632
北海道標津郡標津町北2条西1丁目1番3号
標津町役場企画政策課内
TEL.0153-82-2131
FAX.0153-82-3011

●バックナンバーのご希望は上記までご連絡ください
●次回発行は2020年1月の予定です

しべつろーかるふりーペーぱー

sipeto

Shibetsu Civic Pride Project by Ynet.

[CONTENTS]

発刊にあたって / Places related to “sipeto”

インタビュー 14 鈴木三男さん - 15 藤本靖さん / 編集後記 / and more

Take Free

Ynet.

Let's Open!!!

Youch, Know, Sympathize.

Places related to “sipeto”

今回インタビューさせていただいた方たちに
まつわる場所に行ってみました！

アングラーの夢である河川でのサーモンフィッシング。
北太平洋1万kmの旅から帰ってきたサーモンとのビッグファイトを楽しめる忠類川に行ってきました。国道335号沿いに見える「忠類川」の看板を左に入り車と徒歩で数分。平日にも関わらず道内外から来た10数名の釣り人がサーモンとのファイトを楽しんでいました。
鮭は産卵のため、生まれた川に帰ってきます。なぜ生まれた川に戻ってこられるのか、まだはっきりとは解明されていません。
そんな神秘的な鮭がヒットするとロッドが折れてしまいそうになるほど…この感触を忘れられずに全国各地から釣り人が訪れます。
大自然の中でビッグファイトが楽しめる感動の忠類川、みなさんもぜひ挑戦してみてはいかがでしょうか。

今回の撮影中にちょうど鮭を釣り上げた静岡県から来町された天野さん！
sipetoに掲載したいことをお願いすると快く了承してくださいました。それにしても決して長くない撮影時間中になんともありがたいタイミング！！

《忠類川サケ・マス有効利用調査実行委員会》
事務局：北海道標津郡標津町北6条東1丁目1-1
TEL：0153-82-2341（標津漁業協同組合内）

← HP
check ♪

— Shibetsu Town —
Ynet.

発刊にあたって

皆さんこんにちは。本紙を手にとっただきありがとうございます。
私たち「Ynet.」は町民活動の活性化、町内ネットワークの拡大・構築を目指し組織された役場職員で構成するグループです。標津町には様々なまちづくりに関係する活動をしている団体や個人の方がいて、実際にお会いしてみると、標津町にはこんなにも味わい深い人たちがいるね、っと気づかされました。本紙の表題「sipeto(シペト)」は標津の語源になったとされるアイヌ語「シベツ」と日本語の「人(ト・to)」を掛け合わせた造語で、標津に住む活動的な方々をたくさんの方に知っていただきたく名付けました。

sipetoを通じて人の活動に込められた『想い』に触れて、知って、共感して、共に活動する方が一人でも増えることになればうれしく思います。

Ynet.

Interview

想いを言葉にする。

― 標津に住んで何年？知ったきっかけは？

今年で丸7年になりますね。それはもう、もちろんサーモンフィッシングです。もともと多少溪流釣りをしていましたが、それほど熱心なほうではなかった。函館で遺跡の調査指導の委員だった時、委員長だった北大の吉崎先生という先生と溪流釣りの話をしたら、吉崎先生が「鈴木さん、鮭釣ってみたいかい？」って言うんです。ええ？？って。その頃は鮭釣れるところなんて全くないと思ってたんですよ。それが「鮭が釣れるところがあるんだ。ちゃんと合法的に釣れるんだ。知床半島のすぐそばにある忠類という川なんだよ」と言われて。その後シーズンになって先生から誘われて、初めて標津に来た。確かサーモンフィッシングが始まって2年目だと思います。でもその年は釣れなかったの。悔しくてねー。それで次の年は絶対釣るぞ！とまたやって来て、それでようやく釣れた。そうしたらもうね、止まらないですね。(笑)

私は当時東北大学に勤めていましたが、大学の夏休みの間は仕事を自分で調整して来て、10月から学期が始まると授業が終わってから標津に来て土日を通しました。それが多い年は年間5〜6回。毎年だんだん激しくなって、そのうち夏休みの間は1か月くらいずっと忠類川に通っていました。



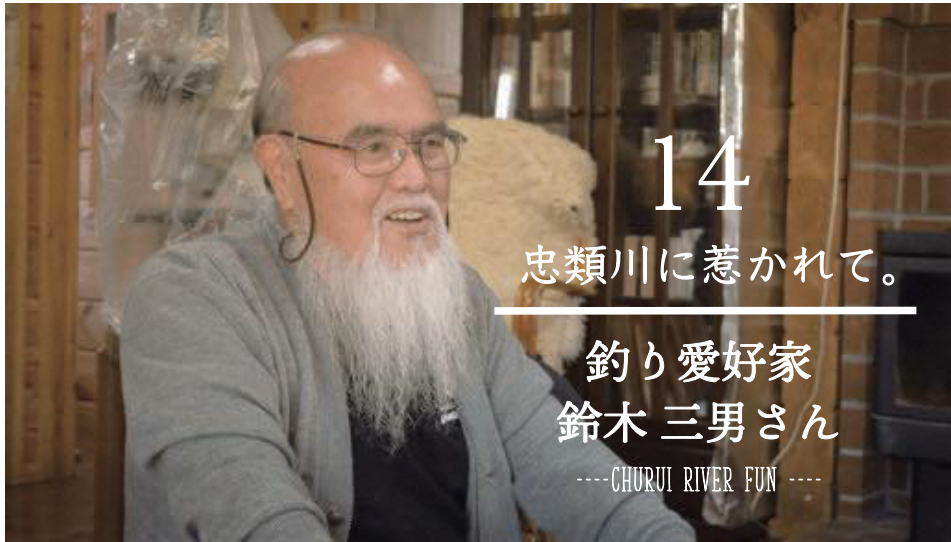
鮭を釣り上げた時の一枚

― 標津町に住むきっかけは？

そうこうしているうちに、地元の人にも「お！帰って来たのかい？」って言われるようになり、もうここに住んじゃえばどうだい？って話になって。当時、美郷団地の区画がなかなか埋まらないという話を聞いて、じゃあここ！と決めました。ただ契約から3年以内に家を建てればよいということだったから、ちょうど定年になった年に建てればいいな思っていたところで、大震災があって。当時仙台に住んでいましたが、家は少し壊れたけど普通に生活できる状態ではあったんです。でもライフラインが全て止まって、ひどい津波被害もあって、思うところもありまして。私はもともと都会の真真中に住みたいという人間ではないし、晴れたら釣りをして、雨が降ったらちょっと仕事、研究活動をしよう。あの地震で、ある意味吹っ切れたというか、もういいんじゃない？という感じで。それで本格的に設計をして、工事が始まったのは地震が起きた年の冬です。

― 標津に住んでみて楽しみは？

天気が良ければできるだけ釣りに行って。それから私は植物が専門だから、やはり植物が実に面白い。野付半島はとて有名ですし標津湿原もね、北の野生植物としては非常に有名です。あとは、冬が終わって春になると山菜採りと植物の花を追いかけて、そ



うしてるうちに川の釣りができるようになって。1年がもう本当に早くて早くて困っちゃう。今日もこれから草刈りをしますけど、そこ（家の裏手）の湿地林も、いろんなものが生えてきて楽しい。本当に自然植物園。水芭蕉がそこらへんに生えてるなんてものすごく羨ましがられる。贅沢の極みです。トトロ道（茶志骨のミズバショウ群生地）も見事です。あれなんか、もう少し観光化できないのかな。それから料理も単純なものしか作らないけど好き。美味しいものを食べると嬉しいよね。私は向こうにいる時グリーンアスパラなんて買ったことなかったけど、さっと茹でて食べるだけで、こんなに美味しかったのか！と。やっぱり素材が違うね。北海道の野菜や魚はもう最高。ただここ最近では鮭が獲れなくなってきて、忠類川も入ってこなくなってきた、特にカラフトマスは本当に少なくなって悲しいです。なんとか自然の力で戻って欲しい。

― この時期は行ける日は毎日釣りに行きますか？

最初はそうだったの。根付いてくると、色んなことが出て来て、この頃は釣りに行く回数はめっきり減っちゃった。まあでもそれだけ定年になっててもやるのがたくさんあって、忙しくやれてるというのは面白いんでしょうね。冬も冬で忙しいですね。日も短いからね、実感として夏の日長さ冬の日短さはめちゃくちゃ面白い。吹雪が来たぞーって時は、家に籠ってたりしますが、必要なんです、電る時も。パソコンのファイルの整理とか。

― 本州の方と標津について話したり、こちらに来たリという機会はありますか？

それはしょっちゅうあります。本州の人に私が一方的にメールで日記を送る『北の国日記』というのをずっと続けてる。みんな喜んで読んでくれて、標津のことをだいぶん分かってもらえた。この春は野付小学校の千島桜の見事さを訴えました。

― 忠類川の魅力は？

忠類川は、やっぱり綺麗なんだよ。多少ゴミはあるけど、他の河川に比べたら少ないし、水質ものすごく良いでしょ。(忠類川上流の) 金山は素晴らしい

渓谷です。このくらい下流から上流まで魚釣りの人にとっての魅力が揃っている川はそうそうない。アクセスできない所が多いのは事実だけど、他の川ならだいたいどこか1ヶ所ですよ。下の方は、ここ数年でほとんどなくなっちゃったけど、前は川が蛇行してぶつかったところに必ず大きなフチがあった。覗き込むと魚がたくさんいて、ただ釣れないんだよねー(笑) あんなにいっぱい居るのに。やっぱり標津に人が来たら、1回は忠類川に連れて行くもんね。釣りをしない人にも、景観は素晴らしいからね。もちろん金山の滝もだけど、もう少しポイントの開発は必要なのかなとは思うね。前に孫が来た時も、小さい子が川遊びができるようなところが、なかなかないんだよね。忠類川のだいぶ奥の、林道をずっと行ったところに結構安全な場所があるので、そこへ連れて行きたいと思って。そこはね、真っ平らなんだけどオショロコマがいっぱいいるんですよ。その川原だけでも草刈りすればちょうどいいと思って、パーベキューをやるようにしてね。孫に釣り竿持たせてやったらオショロコマがピョコピョコ釣れて、それは喜んだ。ちょっとした手入れで、そうやって安全で遊べるところがあればいいんだけど。でもなあ、誰も来ないから魚がいるんで、人がくるようになったら魚がいなくなっちゃうかな。



人々を魅了し続ける忠類川

― 平成7年度から忠類川サケマス有効利用調査が開始となった経緯を教えてください

当時はね、鮭をウライでとって、ふ化事業をしていた川がたくさんあったんだけど、その中から川の合理化が行われて、標津も忠類川と古多糠川と崎無異川の3ヶ所が捕獲を終了した。でも、鮭の捕獲事業をやめるにあたって、放流事業は続けるわけだから、鮭は必ず帰ってきてしまう。そしてその鮭をどうやって利用しようかっていうのが、そもその発端。以前からサーモンダービーをやっていて、町として、『漁業と遊漁の調和』を目指していたわけだから。それを利用してみようかっていうのが、漁業者と遊漁者の両者から自然と生まれたって感じがな。

― 有効利用調査を始める以前から構想が？

そうだね。昔砂防ダム建設の時に、日本で初めて鮭が釣れるようになるのはこの川だから、なんとか残して欲しいと北海道庁に要望して、設計変更してもらった。北海道で初めてのスリット型ダムって言って、切り込みの入った砂防ダムを造ってもらったんだよね。

― 忠類川プロジェクトについて教えてください

元々は、社団法人北海道スポーツフィッシング協会標津支部というのが前身。社団法人が解散したので、忠類川プロジェクトっていう形にして、標津支部を残している状況。最盛期は全道でフィッシング協会の会員数が1800人位いたし、標津支部というと43人位いたかな。そこが中心になってサーモンダービーをやったり、忠類川の事業をやったりはしていたんだけど。釣りクラブじゃなくて社団法人だから。社団法人の釣り人組織というのが全国的にもすごい珍しい。社団法人の釣り人の会っていうのはほとんどない。

― 道内色々な河川がある中で、忠類川の魅力は？

鮭とカラフトマスと2種類の鮭がいるところかな。早い時期はカラフトマスがいて、後半になると鮭に変わるっていう。あと、釣り場となる区域内に人工の構築物が無いっていうことを、来ている人はみんな言うね。要するに自然のまんまっていう。



忠類川に来る人はね、約半分は関東から。本州から6割、道内3割、町内とその他外国人で約1割だね。

― 海外からも？

こないだ外国人がいたからどこから来たか聞いたら、ニューヨークって言ってた。でも多いのはやっぱり台湾・香港・シンガポールあたりかな。とりあえず海外でも忠類川は認知はされているかな。ホームページで日本語のページと英語のページと2種類作っているしね。

― 当初は取材とかTVでも紹介されていましたが？

そうだね。今年は10月13日放送の『釣りびと万歳』っていうBSプレミアムの30分番組やらせてもらって。昔はめちゃくちゃ多かった。ちょうど始まって、3〜4年目がピーク。やっぱり日本で初めてだからかなり脚光を浴びたというか、そういうのがあったかな。忠類川があることで標津っていう名前がどれだけ宣伝されたか。当時のCMペースの広告宣伝費に換算して、4〜5億円って言われたからね。

― 藤本さんはどのような関わり方を？

期間中は朝の4時から川のチェックだよ。毎日川のチェックと熊のチェック。常に安全に気を配っているんだよ。事故があったら終わりだからさ。今は川の水が台風とかで増水して、今日釣りができるかできないかの判断はほとんど自分が指示している。要するに、川を渡れるか渡れないかで、安全対策が変わってくるから。過去には急に増水して対岸に渡ったままこっちに帰ってこれなくなった例が何回もあるのさ。その場合はもう救助なんだよ。それを避けるためには、無理はしない。だから安全対策っていうのは非常に神経を使うよね。これくらいで釣りができないのかって文句を言われることもあるけど、「安全のためですから」と言って、そこはもう断っている。釣りをしないで帰った人たちもたくさんいるよ。だけど、こればかりは自然が相手だからね。事故があったらもう終わりだと思っているから。事故を起こさないように。それが最優先。

― 今まで活動してきた中で、良かった点は？

もちろん人脈はそうだね。本当にこんなところに

こんな人が来るんですか？みたいな人もたくさん来ているし。あとは、釣れても釣れなくても「楽しかったです。」って言うってくれる人がたくさんいるし。その「楽しかった」っていう言葉を聞けるのが良い。毎年来てくれる人がいるから、やっぱりそれが一つの楽しみでもあるし。昔来てくれた人で亡くなった人もたくさんいるんだけど。忠類川が人と人を繋いでくれているっていうのがあるかな。毎年来てくれる人もたくさんいるけど、「また今年もよろしくお願いしますね」って言うのが定番の挨拶になっているからさ。



忠類川で釣れた鮭！

― 今後の展望・目標は？

今やっていることを引き継いでくれる人を育てたい。誰にでもできないから。それでも誰かがやらないとさ、安全っていうところが途切れちゃうから。あとは、若い人達が、自分がこれからずっと住もうと思ってる町だったら、こんなことしたら面白いのに。って思ったことはやったほうがいいと思う。若い人達は若い時にしかやっぱりそういうのはできないし、だからどんどんやって欲しい。標津の町を自分たちで楽しく変えてほしい。自分の町なんだから。

― 最後に、藤本さんにとって標津町の魅力は？

やっぱり山と海じゃないかな。仕事とかで東京とかよく行くけど、山も海も見られないから。標津だと山に行っても海見えるし、やっぱり自然がたくさん残っているってことだと思う。うちの町の人がって、意外と普通すぎて何にも無いって思ってるんだけど、これってすごい財産だと思うよ。